

交代制勤務の禁忌事項 (Scott, La Dou, 1990 *)

交替制勤務の明確な禁忌事項

過去 1 年間に薬物治療を要する癲癇発作があった
冠状動脈の疾患、とくに不安定狭心症あるいは心筋梗塞の既往歴がある
定期的な投薬を必要とする喘息、特にステロイド依存型喘息である
インシュリン依存型の真性糖尿病 (IDDM)
(ただし、IDDM の労働者であっても、仕事および非番の日を通じて定期的な食事、運動量、投薬を維持できるならば、夜勤専従者が夜勤につくことも容認される)
多量の投薬を必要とする高血圧
薬物の大量使用によって 24 時間周期を変化させること 特に輪番制スケジュールの場合
再発性消化性胃潰瘍
過敏性腸炎 症状が重篤な場合
慢性うつ病、あるいは薬物治療を要する他の精神疾患
シフトワークの不応症候群の既往がある

シフトワークにおける相対的な禁忌事項

< 健康上の問題 >

中等度喘息
うつ病の既往歴がある
脳卒中の発作の既往歴があるが、現在は薬物治療を必要とせず、過去 1 年間に発作が起こっていない場合
軽い刺激性腸炎
クローン氏病
頻発性消化不良
不眠症
高コレステロール血症、あるいは高血圧など循環器系のリスク要因; とくに喫煙習慣や冠状動脈疾患の家族既往歴がある場合
著しい時間のずれに対応するために薬物を使用すること

< 個人の性格的および社会生活上の要因 >

40 歳以上である
極端な「朝型」である
睡眠パターンが厳格に決まっている
家族の都合で居住地の移動が多い
家族に対して過度に責任を負っている
通勤時間が非常に長い

* Scott AJ, La Dou J: Shiftwork Effects on sleep and health with recommendations for Medical surveillance and screening. Occup Med. 5:273-299, 1990